

こども教育学科カリキュラムマップ

こども学科ディプロマポリシー	1. 知識・理解	①教員・保育者に求められる教養が身に付いている。 ②教員・保育者に必要な専門的知識や教育・保育技術が身に付いていて、今日的な課題(保育・小学校英語やICT機器の利用など)にも対応可能である。										
	2. 汎用的能力	③育ちゆく幼い者への共感と暖かな眼をもってこどもと向き合い、一人ひとりを大切にその育ちを支えることができるとともに、問題がある場合には素早く発見し、的確な解決を図ることができる。 ④ 教員・保育者に必要なコミュニケーション能力を備えていて、こどもとこども、こどもと教師、こどもと地域、更には保護者と保護者を結びつけることができる。										
	3. 態度・志向性	⑤建学の精神である「真実心」を体得し、これを「思いやりの心」、「向上心」、「感謝の心」として教育実践に活かすことができる。 ⑥教職に対する責任感と情熱をもち、自らも生涯学び続け、成長し続けようという意欲をもっている。										
	4. 統合的な学習経験と創造的思考力	⑦教員・保育者としての教養と専門知識・技術を身に付けていて、これらを一人ひとりのこどもの育ちと学びの支援に統合的に活用できる。 ⑧教育・保育上の一つひとつの問題や課題を、こどもや自身の成長の機会と捉え、教員・保育者として培ってきたすべての力を働かせ、主体的・創造的に解決を図ることができる。										
学科目	科目の主題	科目の到達目標	配分 学習量(授業内外の学修活動の総和)全体を100としたときの配分	ディプロマポリシーの項目番号 凡例 ◎:DP達成のため設定された項目と強い関連性がある ○:DP達成のため設定された項目と相当程度の関連性がある 1つの達成目標に対して合わせて最大2個まで								
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	
こども教育概論	こどもの育ちと保育・教育の全体像を知る	1. こどもの成長発達の全体像を知るとともに保育・教育の意義を理解する	40	○	◎							
		2. 実際の保育・教育の在り方とその目標や内容、方法について知る	30		◎	○						
		3. 保育・教育を規定しているさまざまな制度についての概観を獲得する	30	○	◎							
基礎ゼミⅠ	大学生としての学び方	1. 大学生としての学び方に徐々に慣れる	40	◎					○			
		2. 保育・教育を学ぶ学生に期待される常識やマナーを身に付ける	30	◎	○							
		3. それぞれが調べてきたことを発表し、意見を述べ合い、共同思考の仕方や意義を知る	30				○				◎	
基礎ゼミⅡ	基礎ゼミⅠで学んだ大学生としての学びの方法を実践する。	1. 専門的な文献の読み方、理解の仕方、要約の仕方に習熟する	40	◎	○							
		2. 専門的な文献から自分の関心に応じて論点を見出し、自分の意見をまとめ、論理的に説明できるようになる	40		◎						○	
		3. 幼児教育・保育と学校教育についての古典的な著作を読んで、その深い原理的部分を理解し、自分の教育についての見方を固めていく	20							◎	○	
こども教育基礎演習A	幼稚園教育について理解を深め、幼稚園教育実習(観察実習)に向けての基礎的な心構えとともに、実習終了後は、理論と実践とを重ね合わせて振り返りを行う。	1. 幼稚園の概要を知り、子どもの園生活について理解する	40			◎	○					
		2. 幼稚園教育実習(観察実習)の意義・目的を理解し、観察記録のとり方の基本を習得する。	40								◎	○
		3. 幼稚園教育実習(観察実習)を振り返り、自己の課題を明確にするとともに、保育計画の作成について理解する。	20								◎	○
こども教育基礎演習B	小学校を中心にした授業研究会に参加し、典型的な授業について理解する。	1. 小学校の授業研究会から学び、典型的な授業について理解することができる。	60	○						◎		
		2. 小学校での体育実技を習得し、実際の指導に生かせるようにする。	20	○							◎	
		3. 小学校での理科実験技能を習得し、実際の指導に生かせるようにする。	20	○							◎	
教職論	学校教育を担う教職について基礎的理解と実践的思考力の育成と強化	1. 教職の主要な任務の理解	40	◎				○				
		2. 教職に必要な資質能力の理解	30		◎		○					
		3. 研修による職能発達と教職の生涯の展望	30	○					◎			
保育者論	幼稚園教員・保育士の役割と職務内容の理解	1.教育・保育関連法規に定められた幼稚園教諭・保育士の位置づけや職務内容を理解する。	30	◎			○					
		2. 幼稚園教諭・保育士の専門性について理解し、自らの保育者像を言語化する。	40					○	◎			
		3. 保育者の成長と、それを支える研修のあり方、保育者の協働について理解する	30				○		◎			
教育原理	教育という営みの本質と目的、教育思想の変遷、および校教育の歴史	1. 教育が人間に本質的に不可欠であることについて人間学的見地より理解し、説明できる	40	○	◎							
		2. 教育の在り方に影響を与えた人々の思想や教育実践を知り、自らの教育観を形作る	30	○	◎							
		3. 学校の発展の歴史について概観を得る	30	○	◎							
教育心理学	幼児、児童及び生徒の心身の発達・学習の過程(障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。)	1. 教育心理学の様々な領域における基本的な知識を習得する	50		◎					○		
		2. 教育心理学的なものの見方を理解できる	25		◎						○	
		3. 教育心理学を実践と結びつけながら考え、相互の理解を深める	25		○						◎	
発達心理学	発達心理学の基本的知識を身につける	1. 発達心理学の基本的な考え方を知る	50	◎		○						
		2. 人のこころの発達の流れ、とりわけ幼児、児童及び生徒の発達についての知識を深める	50	◎		○						
人権教育	人権尊重の精神を堅持して、適切な権利行使ができる実践的指導力の育成	1、人権の概念と人権教育の重要性の理解	30			◎			○			
		2、人権感覚を育て、人権尊重の実践的思考力の強化	40			○		◎				
		3、人権関連の国際法と国内法の概要理解	30	○							◎	
仏教教育論	仏教精神に立った保育・教育の理解と実践力の涵養	仏教の人間観・世界観に立って教育・保育を考えることができる。	30			◎		○				
		建学の精神である「真実心」が理解できている。	30			○		◎				
		仏教精神を教育・保育の実践に活かす心構えができている。	40			○		◎				
教育の制度・運営	学校教育を支える主要法令の理解、教師の力量育成・向上方策、学校教育を巡る争訟の理解と対応力の育成	1、学校教育などの主要関係法令の理解	40	◎					○			
		2、教師の主要能力とその育成構造の理解	30				◎	○				
		3、学校教育の争訟事例と教育改革の動向理解	30		○							◎
保育内容総論	幼児期の発達特性や幼児教育の基本を理解して保育内容の考え方を学び、子どもの活動を5領域から総合的に捉える視点を養う	1. 保育における実践を5つの領域から総合的に捉えることを理解する	40	◎						○		
		2. 子どもの今後の発達を見据えた保育案を立案しようとする	30	◎							○	
		3. 保育の内容を具体的にイメージし、実践へとつなげることを理解する	30	○							◎	
保育方法論	乳幼児の発達や行動の特性、発達課題を踏まえながら、情報機器の活用法、視聴覚教材選択の要点と活用について学習した上で、望ましい保育方法、具体的な保育方法の実践について検討する。	1.乳幼児の発達に応じた保育方法の特性について理解する。	30							◎	○	
		2.保育内容5領域の総合性における、乳幼児の活動の実際を理解する。	40								◎	○
		3.保育・教育活動に役立つ情報機器、視聴覚教材の選択と活用法について理解する。	30		◎						○	

学 科 目	科目の主題	科目の到達目標	配分 学習量(授業内外 の学修活動の総 和)全体を100とした ときの配分	ディプロマポリシーの項目番号							
				凡例 ◎:DP達成のため設定された項目と強い関連性がある ○:DP達成のため設定された項目と相当程度の関連性がある 1つの達成目標に対して合わせて最大2個まで							
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
保育課程論	保育課程と保育(指導)計画の関係を理解し、特に、計画を立てる時の基盤となる子どもの姿や活動のとらえ方、環境構成や保育者の援助などについて具体的に学ぶ	1. 保育課程の全体構造を知り、保育計画の必要性とその意義を理解する	40	◎	○						
		2. 保育計画の作成や記録、反省評価に関しての基本的な考え方を理解する	30		◎	○					
		3. 子どもの姿や活動の捉え方、環境構成と援助について理解する	30			○				◎	
国語(書写を含む)	小学校の国語(書写を含む)の学習指導を行うための基礎となる知識、技能の修得	1. 国語科教育の意義を理解し、説明することができる	20	◎	○						
		2. 国語科教育の今日的課題を捉え、課題解決の具体を提示することができる	30							○	◎
		3. 小学校国語科の学習指導の基礎となる知識、技能を習得している	50	◎					○		
社会	小学校社会科の目標と内容を知る	1. 小学校社会科の目標と内容を理解し、「地域社会」「国土」「歴史」等についての基礎的な知識や資料活用 of 技能を身に付ける	50	◎						○	
		2. 社会的な事象に関心をもち、多面的・多角的に考察し、公正に判断できる能力と態度を養う	25	◎						○	
		3. 小学校学習指導要領の構成と内容を理解する	25	◎						○	
算数	小学校算数科の目標と教育内容(各領域の内容とその系統)を修得する	1. 算数科の内容や体系に関心を持ち、数学的な見方や考え方の良さを認識し、積極的に活用しようとする	30					○	◎		
		2. 数学的な見方や考え方を身に付け、授業を数学的にとらえ、思考の過程を多面的・論理的に考える	30							○	◎
		3. 算数科における基礎的な内容を理解し、知識を身に付けている	40	◎	○						
理科	小学校理科の目標及び内容を理解し習得すると共に、各学年の「物質」「エネルギー」「生命」「地球」の領域の関連性を理解する	1. 理科の目標及び各学年の目標の考え方とその内容を理解する	50		◎	○					
		2. 実証性・再現性・客観性などの科学的なものの見方や考え方を及び問題解決的な学習を会得する	30	○		◎					
		3. 理科の内容構成と系統性を理解する	20		◎				○		
生活	生活科の目標と内容を具体的な活動に即して理解する	1. 教科としての特徴を目標・内容・方法・評価という構成原理から理解する	40	○						◎	
		2. 生活科の具体的な活動の概要や2年間のカリキュラムについて理解する	30	○	◎						
		3. 生活科の指導を支える探究活動や表現活動、交流活動などの原理から単元の指導展開や評価のあり方を学ぶ	30			○	◎				
音楽Ⅰ	保育音楽・小学校音楽で求められる知識・技能を習得するための導入編	1. 基本的な音楽理論を習得する	50	○	◎						
		2. 正しい日本語の発音にも目を向け、美しい発音で歌えるようにする	20	○	◎						
		3. 正しい姿勢、呼吸法の基礎を身に付け、疲れにくい健康的な発声を習得する	30	○	◎						
音楽Ⅱ	保育音楽・小学校音楽で求められる知識・技能を習得するための基礎編	1. コードネームによって弾き歌い曲に簡単な伴奏がつけられる	20	○	◎						
		2. 各自の能力に応じた弾き歌い曲を指定曲から選択し、規定の曲数以上をクリアする	40	○	◎						
		3. 各自の能力に応じたピアノソロ曲を指定曲から選択し、規定の曲数以上をクリアする	40	○	◎						
音楽Ⅲ	幼児教育および小学校における音楽指導で必要となる技能の習得を目指す応用編	1. グループで器楽アンサンブルを創り上げることができる	20	○	◎						
		2. 各自の能力に応じた弾き歌い曲とバイエル終了程度以上のピアノソロ曲を指定曲から選択し、規定の曲数以上をクリアする	60	○	◎						
		3. ピアノ演奏技術の基礎を身に付け、楽曲にふさわしい表現ができる	20	○	◎						
音楽Ⅳ	幼児教育および小学校における音楽指導で必要となる技能の習得を目指す発展編	1. 小学校で歌われる合唱曲にグループで取り組み、わかりやすく効率の良い指導法について考察する	20	○	◎						
		2. 各自の能力に応じた弾き歌い曲とブルグミュラー程度以上のピアノソロ曲を指定曲から選択し、規定の曲数以上をクリアする	60	○	◎						
		3. 子どもたちが基礎的な動きを楽しむためのピアノ即興演奏ができる	20	○	◎						
図画工作Ⅰ	幼児・児童の造形表現活動について理解する	1.子どもの心身の発達と造形技能の発達のかかわりについて理解する	35	○	◎						
		2.描き作るための基本的な材料・用具・技法の特性を理解し、適切に使用できる	35	○	◎						
		3. 幼児教育・小学校教育の中で取り扱う造形教材とその指導法について理解する	30			○				◎	
家庭	小学校家庭科の特質と目標を理解し、教科内容を把握する。4つの内容項目について児童の学習や特質・瀬活実態に合った指導を展開するため、家庭科の実践的指導に必要な資質を養う。	1. 小学校家庭科の特質、教育目標および教科内容を理解する	40		◎				○		
		2. 4つの内容項目の指導について、」実習を通して基礎・基本の技術を身に付け、授業実践ができるようにする	30		◎				○		
		3. 家庭科の特質と児童の実態を熊得た具体的な指導計画について知る	30		◎				○		
体育Ⅰ	子どもの発達に応じた運動遊び・体育の教材を理解し、実践する。	1. 幼児期・学童期それぞれの発達課題を踏まえた具体的な運動遊びおよび体育の教材について理解する。	50			○				◎	
		2. 幼児期・学童期の具体的な運動遊びおよび体育の教材を実践できるようにする。	50			○				◎	
保育相談支援	保育、教育現場における保護者や子どもとのコミュニケーションのありかたについて、カウンセリングの観点から考える。	1. カウンセリングの基本的知識・技能を身に付ける。	40	◎		○					
		2. 保護者の状況を理解し、一人ひとりにあった適切なかかわりについて考える。	30			○	◎				
		3. 子どもの状況を理解し、一人ひとりにあった適切なかかわりについて考える。	30			◎	○				
保育内容研究	保育における領域の総合性に関して研究し、子どもの観かた、保育の方法について総合的に捉える視点を養う。	1. 保育内容と5領域との関連を理解する	40		◎					○	
		2. 保育課程、教育課程の編成の意味について理解する	20	○	◎						
		3. 領域の総合性におけるこどもの遊び(活動)の実際について研究する	40			○				◎	
児童心理学	子どものこころを理解するための基本的知識を身に付ける	1. 幼児に関する心理学の基本的な考え方を知る	60	◎		○					
		2. 一人ひとりの子どもによりそった援助のありかたを考える	40	◎		○					
体育Ⅱ(幼児)	幼児期の発達に応じた運動遊び・体育の教材を理解し、実践するとともに、保育指導計画を立案する。	1. 乳幼児期の発達に応じた運動遊びの教材を工夫できる	40							◎	○
		2. 各種の運動遊びの指導法を理解し、実践できる	30							◎	○
		3. 身体活動の場面での安全面の配慮ができる	30							○	◎
保育内容Ⅰ(健康)	乳幼児期の心身の発育と運動能力の発達について学ぶ	1. 乳幼児期の心身の発育と運動能力の発達について理解する	40		◎	○					
		2. 環境と子どもの健康について理解する	40		◎	○					
		3. 発育発達に応じた望ましい援助を考えることができる	20							◎	○
保育内容Ⅱ(人間関係)	乳幼児期の子どもが、遊びを通して周りの人との関係を広げ・深めていく過程について学ぶ	1. 領域「人間関係」の基本的内容を理解する	50	◎	○						
		2. 乳幼児期の人との関わりの発達過程を理解し、ふさわしい援助や環境構成について考えることができる	30		◎	○					
		3. 実技を通して、子どもの人間関係を育む「わたしの人間関係力」を養う	20				○			◎	

学 科 目	科目の主題	科目の到達目標	配分 学習量(授業内外の学修活動の総和)全体を100としたときの配分	ディプロマポリシーの項目番号							
				凡例 ◎:DP達成のため設定された項目と強い関連性がある ○:DP達成のため設定された項目と相当程度の関連性がある 1つの達成目標に対して合わせて最大2個まで							
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
保育内容Ⅲ(言葉)	乳幼児期の子どもが、生活(遊び)の中で言葉を獲得していく過程を学び、文化財としての絵本や昔話を取り扱う意義について実技を通して理解する	1. 子どもが言葉を獲得する過程を理解する	30	◎	○						
		2. 子どもが豊かな言葉を獲得するための保育者の役割を理解する	40		◎		○				
		3. 実技を通して、子どもの言葉を育む保育者自身の言語感覚を養う	30	○						◎	
保育内容Ⅳ(環境)	身近な自然環境に好奇心や探究心をもって関わることのできる子どもを育む	1. 子どもの心身の発達に寄与する環境の在り方を考える	40		○						◎
		2. 子どもの成長を促す環境について理解し、実践につながる環境との関わり方を習得する	30			◎			○		
		3. 保育における環境に関心をもち、具体的実践的な知識技能を身に付ける	30	○						◎	
保育内容Ⅴ(総合表現Ⅰ)	造形表現と身体表現の基本的な知識と技能を学び、それらを関連させた表現活動に取り組む。	1. 造形表現活動における専門的な知識と技能を習得する	30							.◎	○
		2. 身体表現活動における専門的な知識と技能を習得する	30							◎	○
		3. 領域を連携させた総合表現活動の作品の作成し発表する	40							◎	○
保育内容Ⅴ(総合表現Ⅱ)	言語活動と音楽活動を取り上げ、それぞれの領域(表現・言葉)における専門的知識と技能を習得するとともに、美しい日本語の響きを伴った音楽的表現活動の創作に取り組む。	1. 言語表現活動における専門的な知識と技能の習得	30	○	◎						
		2. 音楽表現活動における専門的な知識と技能の習得	30							◎	
		3. 科目を連携させた総合表現活動の工夫と発表	40		○						◎
保育内容Ⅴ(総合表現Ⅲ)	子どもの表現活動は様々な領域の要素が統合されたものであることを理解し、総合表現Ⅰ・Ⅱで習得した知識・技能をもとに音楽・造形・身体・言語表現活動を連携させた総合的な表現活動の創作に取り組む	1. 様々な表現領域を連携させた活動における知識と技能を習得する	50							.◎	○
		2. 領域を連携させた総合表現活動の作品の作成し発表する	50							◎	○
音楽Ⅴ	幼児の音楽指導法と保育のためのピアノ演奏技能の習得	1. 子どもの発達と音楽的成長について理解する	20							◎	○
		2. 保育所・幼稚園において音楽指導ができる知識・技能を習得する	40							◎	○
		3. 既習曲を含め弾き歌い曲のレパートリーを20曲以上のレパートリーを持つ	40							◎	○
音楽Ⅵ	保育・小学校音楽科のためのピアノ演奏の展開編	1. 弾き歌い曲の初見演奏、伴奏付けができる	20							◎	○
		2. ソナチネ程度以上のピアノ・ソロ曲と弾き歌い曲のレパートリーを各1曲ずつ持つ	30							◎	○
		3. 既習曲を含め弾き歌い曲のレパートリーを40曲以上のレパートリーを持つ	50							◎	○
音楽Ⅶ	保育・小学校音楽科のためのピアノ演奏の集大成編	1. ピアノ・アンサンブルを体験し、二人で音楽を創り上げる楽しさを味わう	20							◎	○
		2. 既習曲を含め弾き歌い曲のレパートリーを60曲以上のレパートリーを持つ	30							◎	○
		3. テンポ設定・アーティキュレーション・フレージング等についても妥協せず、質の高い音楽を追求・実践できる	50							◎	○
レクリエーション指導法	幼稚園・保育園等での子どもを対象にした行事・親子行事等におけるレクリエーション活動の指導に関する理論と実際について、具体的な活動の計画の立て、実践する。	1. レクリエーション活動に関する理論について学ぶ	30		○		◎				
		2. 子どもや親子を対象にしたレクリエーション活動の計画を立てる	30							◎	○
		3. 立案したレクリエーション活動の計画に基づいて実践し、振り返ること で、さらに実践力を深める	40							◎	○
保育原理	保育の基本事項を学ぶ	1. 保育所の役割を理解する	30	◎	○						
		2. 保育用語を理解する	40	◎	○						
		3. 保育所保育指針における保育の基本を理解する	30	◎	○						
児童家庭福祉	子ども家庭福祉の理念・価値、子どもとその家庭の福祉的ニーズおよびそれを支援するための社会資源について理解する	1. 子ども家庭福祉の基盤となる理念・価値を理解する	20		◎	○					
		2. 現代社会における子どもとその家庭の福祉的な課題を理解する	30		◎	○					
		3. 支援を必要とする子どもとその家庭が活用できる制度・サービスについて理解する	50		◎	○					
社会福祉	社会福祉に関する基礎的な知識を身につけるとともに、現代の社会福祉動向と課題について理解し、子どもを支援するうえでの福祉的視点を養う。	1. 社会福祉の意義・歴史および法制度・実施体制について理解する	50		◎	○					
		2. 社会福祉における援助方法や利用者の保護にかかわる仕組みについて理解する	30		◎	○					
		3. 社会福祉の動向と課題を理解する	20	○	◎						
相談援助	保育者として相談援助を行うために必要な知識と技術を習得する。また、事例分析を通して、対象への理解を深める。	1. 対人援助技術を理解し、習得する。	40			◎				○	
		2. 保育分野における相談援助に必要な社会資源とその活用方法を理解する	30				◎			○	
		3. 相談援助の効果と必要性を理解する	30			◎				○	
社会的養護	社会的養護の意義及び制度・実施体系等を理解するとともに、社会的養護における児童の人権擁護及び自立支援等への理解を深める。	1. 社会的養護の意義を理解する	30		◎						○
		2. 施設養護をはじめとする社会的養護の実態を理解する	40		◎	○					
		3. 社会的養護における児童の人権擁護及び自立支援等について理解する。	30		◎					○	
子どもの保健ⅠA	正常小児を理解する	1. 小児期各期の身体発育を理解する	50		◎	○					
		2. 小児期各期の運動・神経発達を理解する	50		◎	○					
子どもの保健ⅠB	健康障害が子どもに及ぼす影響を理解する	1. 子どもの病気の特徴について理解する	40		◎	○					
		2. 子どもの健康障害が家族に及ぼす影響について理解する	30		◎					○	
		3. 子どもの健康の保持増進、疾病予防や対応方法について理解する	30		◎					○	
子どもの保健Ⅱ	保育に必要な子どもの成長・発達・健康についての理解を深め実践的な技術を習得するとともに、身体機能の評価・疾患罹患児への対処法について学ぶ	1. 子どもの成長・発達についての指標を理解し、評価できる	40			◎				○	
		2. 子どもの病気・起こりうる事故を理解し、初期対応ができる	30			◎				○	
		3. 子どもの病気・起こりうる事故を予防する方法を考えることができる	30							◎	○
子どもの食と栄養	子どもの特性を理解し、健康の維持・増進に貢献するための食事に必要な知識・技術を習得する	1. 栄養と食品に関する基礎知識を身につける	40		◎	○					
		2. 子どもの発育・発達に応じた食生活のあり方を理解する	30			◎	○				
		3. 食育の基本を学び食育の企画ができる	30		◎	○					
家庭支援論	子育て家庭の現状を理解し、子育て家庭の多様なニーズに応じた支援について考える。	1. 家庭の意義とその機能について理解する。	30		◎		○				
		2. 子育て家庭をとりまく社会状況と支援体制について理解する。	30		◎	○					
		3. 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携について理解する。	40				◎			○	

学 科 目	科目の主題	科目の到達目標	配分 学習量(授業内外 の学修活動の総 和)全体を100とした ときの配分	ディプロマポリシーの項目番号							
				凡例 ◎:DP達成のため設定された項目と強い関連性がある ○:DP達成のため設定された項目と相当程度の関連性がある 1つの達成目標に対して合わせて最大2個まで							
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
乳児保育	乳児(0.1.2歳児)と、乳児保育についての基本的な理念、知識、技術を学ぶ。	1. 乳児は養育者や保育者に関わってもらうことによって育つ存在であることを知る	30	◎				○			
		2. 乳児期の子どもの食事、排泄、生活リズムなどの発達と援助、健康、安全について知る	40	◎					○		
		3. 乳児の発達に即した保育内容と環境づくりを理解する	30	◎					○		
障害児保育	障害のある子について理解し、障害のある子が保育の場に通うことの意義を知り、保育者として為すべき手だてについて学ぶ。	1. 子どもとして尊ぶことを理解する。	30	◎		○					
		2. それぞれの障害の特性を理解する。	40	◎	○						
		3. 障害のある子と共に楽しめる保育の手だてを考える	30	◎					○		
社会的養護内容	施設養護をはじめとする社会的養護の実際を知り、人権に配慮した支援計画の作成や具体的支援方法について学ぶ。	1. 社会的養護における児童の権利擁護や保育士等の倫理について具体的に学ぶ。	30		◎			○			
		2. 施設養護及び他の社会的養護の実際について学び、社会的養護にかかわるソーシャルワークの方法と技術について理解する。	40			◎				○	
		3. 個々の児童に応じた支援計画を作成し、日常生活の支援、治療的支援、自立支援等の内容について具体的に学ぶ。	30			○					◎
道徳	幼児期における道徳心の芽生えを育む保育についての理解と実践方法の習得	幼児の発達と人間関係の深まりについて理解できている。	30	○	◎						
		協同性を育てる保育の基礎を理解し、自分なりの工夫ができる。	30			○				◎	
		保育において道徳性の芽生えを大切にし、育てていく態度が身についている。	40					○			◎
第二言語習得論	第二言語習得理論を学び、より効果的な第二言語教授法・学習法を学ぶ。	1. 第二言語習得研究を概観する	50	◎	○						
		2. 第二言語習得のメカニズムを学ぶ	25	◎	○						
		3. 第二言語習得論の成果の活かし方を考える	25		○					◎	
英語の発音	英語の音素を学び、正確な英語を聴き話すための強勢やリズムなどを身につける。	1. 日本語の音と英語の音の違いを理解する	30	◎	○						
		2. 英語の音素を習得する	40	◎	○						
		3. 英語の強勢・イントネーション・リズム・リエゾンを習得する	30	◎	○						
幼児英語指導演習	言語活動の4分野のうち、聞く・話す活動を軸に、幼児に対する教育ができる英語力を身につける。	1. マザーグースを中心に英語の韻に対する感覚を身につける	50	◎	○						
		2. 英語の歌やゲームを学ぶ	25	◎						○	
		3. 英語の絵本の読み聞かせを学ぶ	25	◎						○	
道徳教育の理論と指導法(初等)	特別な教科「道徳」についての理論的理解と指導法の習得	倫理学および道徳教育の歴史について概観が得られている。	30	○		◎					
		学習指導要領における道徳教育の目的や教育内容が理解できている。	40			◎					
		現代社会に相応しい道徳教育を模索する態度が養われている。	30							◎	○
特別活動指導論(初等)	特別活動の考え方や内容を学習指導要領に即して知るとともに、その源流である課外活動の発展の歴史を知り、生き生きとした特別活動を実現する方途を考える。	特別活動の発展過程とその中心となる原理(集団指導)について理解する	30	○	◎						
		特別活動に関する学習指導要領の内容を理解する	40			◎				○	
		特別活動の指導案を作成し、指導できる力を身に付ける	30			○				◎	
生徒指導論(初等)	・生徒指導の理論及び方法 ・進路指導の理論及び方法	1. 個性を持つ児童・生徒一人ひとりを理解するための基礎を学ぶ。	50			◎				○	
		2. 教師の専門職性をふまえながら児童・生徒に対する理解及び援助の方法について考える。	25			◎				○	
		3. 生徒指導の理論と方法を実践と結びつけながら考え、相互の理解を深める	25			○				◎	
教育方法論(初等)	授業方法と教育方法のかかわりを知り、教育方法の歴史と関係付けて理解する。	1. 教育方法に関する理論に基づき、学級経営の在り方を理解することができる。	40	○						◎	
		2. 教育方法に関する理論に基づき、授業方法の基本を理解することができる。	40	○						◎	
		3. 教育方法の歴史を振り返り、現在の教育との関連を理解することができる。	20	○						◎	
教育課程論(初等)	教育課程の概念と学習指導要領(総則)についての理解を深め、学習指導案作成に活かせるようにする。	教育課程の意味や構成原理、そこに含まれる諸問題について理解できている	30	○	◎						
		学習指導要領(総則)の内容が理解できている	30			◎				○	
		学習指導要領を踏まえ、児童の成長に資する指導案が作成できる	40			○				◎	
教育相談(初等)	教育現場における保護者や子どもとのコミュニケーションのありかたについて、カウンセリングの観点から考える。	1. カウンセリングおよび教育相談の基本的知識・技能を身につける。	40	◎						○	
		2. 保護者の状況を理解し、一人ひとりにあった適切なかかわりについて考える。	30			○	◎				
		3. 子どもの状況を理解し、一人ひとりにあった適切なかかわりについて考える。	30			◎	○				
国語科指導法	児童生徒が習得すべき基礎・基本と活用の関係を明らかにし、実生活に生きてはたらく国語力育成のために有効な指導法について学ぶ	1. 実生活に生きてはたらく国語力育成のための授業、指導方法を理解する。	30	○	◎						
		2. 目標と評価の関係を明確にした国語科学習指導案を作成することができる。	20			○				◎	
		3. 作成した国語科学習指導案をもとに模擬授業を行うことができる。	50							○	◎
社会科指導法	小学校社会科の問題解決的な学習過程の理解と指導案作成	1. 小学校社会科の問題解決的な学習について、授業の構成要素から実感的に理解し、実践のイメージをもてるようにする。	50	○						◎	
		2. 小学校社会科の単元構成を理解し、学習指導案を作成する。	25	○						◎	
		3. 模擬授業を行い、全体で振り替えることにより、授業を進める力をつける。	25	○						◎	
算数科指導法	小学校算数科の目標、内容、指導法、評価への理解を深め、教育実践に必要な知識・技能を修得することを目標とする。	1.算数科の目標、内容、指導法、評価に関心を持ち、教育実践に必要な知識・技能を習得し、それを実践で活用しようとする。	30	◎	○						
		2.指導内容、指導方法や教材・教具、子どもの学びなどについて具体的に捉える、学習指導案を作成する。	30	○	◎						
		3. 模擬授業を行うことを通して、算数科の指導方法を身に付ける。	40		○		◎				
理科指導法	観察や実験などを通して、直接自然に触れながら問題解決学習を指導の仕方を学ぶ	1、指導計画の立て方と指導案の書き方を習得する	40		◎				○		
		2、問題解決学習の具体的な進め方や指導のあり方を理解する	30			◎	○				
		3、模擬授業を行い、的確な指導方法を身に付ける	30	○					◎		
生活科指導法	人・社会・自然と自分との関わりの中で価値ある気づきをとらえ、問題解決の過程で思考・判断・表現を一体的にとらえる学び方を習得する	1、人・社会・自然と自分との関係を一体的にとらえることができる	30	○						◎	
		2、生活科の学習の特質を踏まえた具体的な指導法のあり方を学び習得する	40		◎				○		
		3、指導案の作成や模擬授業を通して実践的な指導力を磨く	30				◎				○
音楽科指導法	学習指導要領に基づく音楽科基礎理論を根拠として、小学校音楽家の指導案作成をし、模擬授業を行う。	1. 音楽的知識・実技の経験を振り返り小学校音楽家の授業実践に結び付け理解する	50							◎	○
		2. 具体的授業像につながる学習指導案を作成し。模擬授業を行う	50							◎	○

学 科 目	科目の主題	科目の到達目標	配分 学習量(授業内外 の学修活動の総 和)全体を100とした ときの配分	ディプロマポリシーの項目番号							
				凡例 ◎:DP達成のため設定された項目と強い関連性がある ○:DP達成のため設定された項目と相当程度の関連性がある 1つの達成目標に対して合わせて最大2個まで							
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
図工科指導法	児童の心身の発達と造形活動の関わりを理解し、小学校図画工作科の指導方法を身につける	1.図画工作科の目標や内容ならびに教科の特性について理解する	40	○	◎						
		2.図画工作科で使用する材料や道具の取扱いを身につける	40	○	◎						
		3.表現・鑑賞の授業を展開するための指導力を身につける	20		○					◎	
家庭科指導法	小学校児童の学修実態や生活実態を考慮し、教科の指導の在り方について実践的に考察するとともに、教材研究を行う。	1. 小学校の家庭科の指導の実態を理解する	40		◎					○	
		2. 小学校家庭科で取り上げる内容について、具体的に教材研究を進めることができる	30							◎	○
		3. 小学校家庭科の課題を踏まえたうえで家庭科の荻授業を行う	30							◎	○
体育科指導法	体育科の基礎理論を学んだうえで、児童が意欲的に活動する体育の授業を実践する力を養う。	1. 児童の運動に対する意欲、能力の高め方についての基礎理論を学ぶ	25		○	◎					
		2. 運動の特性を理解した指導案の作成ができる	25		○					◎	
		3.目標と指導と評価の一体化した体育の授業」を実践できる力を養う	50		○					◎	
算数演習	算数科における教育内容および数学的考え方を学ぶことを通して、算数科の教材を分析考察することができる。	算数科の内容や歴史に関心を持ち、今後の算数科における教育内容の在り方を考えようとする。	30					◎	○		
		算数科における教育内容と数学との関連を踏まえたうえで、算数科の教材を分析考察することができる。	30							◎	○
		「数学史」「数学の内容」および「数学的考え方」を理解し、知識を身に付けている。	40	◎	○						
理科演習(実験)	理科で行う観察実験の実際のな技能を習得すると共に、その方法の奥にある考え方に対する理解を深める。	1、実験や観察の手法が作り出される意味や意義を深く理解する。	20	◎	○						
		2、実際の観察法や実験の仕方を実践的に学び習得する。	60			◎		○			
		3、観察や実験の質的内容を評価する力を養う。	20							◎	○
図画工作Ⅱ	幼児・児童の造形表現について理解し、活動における援助・指導の方法を習得する	1.幼児の造形活動、小学校図画工作科で使用する素材や技法を活動のねらいに応じて活用できる	35	○	◎						
		2.造形表現活動を行なうための指導法、環境設定、援助について理解し、実践できる	40	○	◎						
		3.造形表現について理解を深め、応用力や指導法を身につける	25		○					◎	
体育Ⅱ(児童)	運動の特性を理解し、指導する実践力を養う	1. 児童の運動に対する意欲、能力の高め方についての基礎理論を学ぶ	40		○					◎	
		2. 運動遊びや運動の特性を理解し、発達段階に応じた活動を立案できる	30		○					◎	
		3. 運動指導を実践する指導力を養う	30		○						◎
英語教材研究	初期英語を学ぶ幼児用、中期英語を学ぶ児童(小学校1～6年)用の英語教育教材を研究する。	1. 幼児用に音を中心として教え、からだで覚えるような教材を研究する	20		◎					○	
		2. 小学校低学年用に語彙学習につながる教材を研究する	40		◎					○	
		3. 小学校高学年用に語彙増強、統語学習につながる教材を研究する	40		◎					○	
小学校英語指導演習	言語活動の4分野のうち、読む・書く活動も視野に入れた、小学生に対する教育ができる英語力を身につける。	1. 学年ごとに、発達段階に応じた絵本を選書する	30		◎					○	
		2. 選書した絵本を授業展開にあった時間で、正確に読み聞かせる力をつける	40		◎					○	
		3. 選書した絵本の内容をふまえた言語活動を考え、指導する力をつける	30		◎					○	
総合的な学習の指導法	総合的な学習のねらいを理解し、学習過程の中で必要な力をつける方法を知る。	1. 総合的な学習のねらいと「つきたい力」について理解する。	40		○					◎	
		2. 総合的な学習の学習過程の中で、必要な力をつける方法を知る。	30		○					◎	
		3. 総合的な学習の学習過程について理解する。	30		○					◎	
プレゼミⅠ	小学校でのインターンシップを通して学んだことを、文献を活用して振り返り、理論と実践の一体化を目指す。	1. 小学校でのインターンシップを通して、児童の毎日を知り、教室経営の具体的な方法を理解する。	50		◎				○		
		2. 小学校での授業の様子を参観し、交流した上で、理論的な文献でその意味をとらえ直すことができるようにする。	25		◎				○		
		3. 模擬授業を行い、インターンシップで学んだことを生かせるようにする。	25		◎				○		
プレゼミⅡ	小学校でのインターンシップを通して学んだことを、特に特別支援教育の文献を活用して振り返り、理論と実践の一体化を目指す。	1. 小学校でのインターンシップを通して、児童の毎日を知り、特別支援教育の具体的な方法を理解する。	50		◎				○		
		2. 小学校での授業の様子を参観し、交流した上で、特別支援教育の理論的な文献でその意味をとらえ直すことができるようにする。	25		◎				○		
		3. 模擬授業を行い、インターンシップで学んだことを生かせるようにする。	25		◎				○		
専門ゼミⅠ	専門ゼミⅡ以降、各自の専攻分野をゼミで集中的に学ぶことになるが、その前段階として、教育学・教科指導法の論文を多数読むことを通じて、論文執筆の基盤を作る。	論文を読んでその主張と論文構成について分析し理解することができる。	50	○	◎						
		各分野の論文を読んで、その論文が先行研究を越えて打ち出している新たな見解を理解し吸収できる。	30	○	◎						
		読んだ論文を自分の論文の作成に活かす準備ができる。	20		○					◎	
専門ゼミⅡ	各自が選択した分野を自分の専攻として広く深く学習し、4年次の卒論・卒研ゼミへとつなぐ。	各ゼミで全員が共通して学ぶ内容が十分理解・習得できている。	40	○	◎						
		自分の研究テーマを定めることができる。	30		○						◎
		自分の研究テーマについての研究を開始し、成果を上げている。	30		◎				○		
卒論・卒研ゼミⅠ	各自が選択したゼミに分かれて専門分野を研究し、卒論・卒研執筆の準備をする。	自分の研究テーマについて基本文献を読み進めている(技術系の場合は、基礎作業や基礎練習を進めている)。	50	○	◎						
		先行研究について分析を進めている。	20	○	◎						
		自分の研究テーマに関する先行研究を読み進めている。	30		○				◎		
卒論・卒研ゼミⅡ	各自の所属ゼミで専門分野の研究を深めると同時に卒論・卒研を執筆する。	自分の研究テーマについて必要な知識(技術系の場合は関連技術)が習得されている。	50		◎					○	
		自分の研究テーマについて必要な文献を読み通し、理解ができている。	30		◎					○	
		ゼミで構想を発表し、他者の意見を容れて、よりよい構想に練り上げている。	20				◎		○		
卒業論文	4年間の学習の総まとめとして自分が選んだ分野の卒業論文を執筆する。	自分の研究テーマについて基本的な知識が十分獲得されている。	30	○	◎						
		先行研究の主なものを踏まえて論文で自分の主張を展開できている。	30		◎					○	
		論文が説得力のある構成になっている。	40		○		◎				
卒業研究	4年間の学習の総まとめとして自分が選んだ分野の卒業研究を執筆する。作品制作または実演も可(その場合、作品解説を提出する)。	自分の研究テーマについて基本的な知識・技術が十分獲得されている。	50		◎					○	
		明確な主張を持った論(作品や演奏)となっている。	30				◎		○		
		今後力を入れるべき発展方向を理解できている。	20						◎	○	
教育実習事前・事後指導(幼稚園)	幼稚園教育実習Ⅱ(実践実習)の意義や目標、内容について理解を深め、実習に向けての準備を行う。また、実習後には実習を振り返り、自己の課題を明確にする。	1. 幼稚園教育実習Ⅱ(実践実習)の意義や目標、内容を理解する	40							◎	○
		2. 習得した専門的な知識・技能をもとに保育指導案を立案し、実習での保育実践につなげる	40							◎	○
		3. 実習を振り返り、保育者としての自己の課題を明確にする	30							◎	○

学 科 目	科目の主題	科目の到達目標	配分 学習量(授業内外 の学修活動の総 和)全体を100とした ときの配分	ディプロマポリシーの項目番号							
				凡例 ◎:DP達成のため設定された項目と強い関連性がある ○:DP達成のため設定された項目と相当程度の関連性がある 1つの達成目標に対して合わせて最大2個まで							
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
教育実習事前・事後指導(小学校)	教育実習の意義と目的を理解するとともに、学習指導案作成などを通して教育実習の内容と方法を理解できるようにする。	1. 教育実習の意義と目的を理解する。	30		○					◎	
		2. 教育実習の内容と方法を理解する。	40		○					◎	
		3. 学習指導案が作成でき、実習の記録をとることができる。	30		○					◎	
幼稚園教育実習Ⅰ(観察実習)	幼稚園の概要を知り、観察の視点に基づいて観察記録をとることができる。	1. 幼稚園の概要を知り、子どもの園生活について理解する。	40		◎	○					
		2. 幼稚園教諭の役割を理解する。	30		◎					○	
		3. 観察の視点に沿った観察記録をとることができる。	30		○					◎	
幼稚園教育実習Ⅱ(実践実習)	幼稚園での教育実践を通して幼児、幼稚園教諭の職務内容、保育技術、環境構成などについての理解を深め、部分保育、全日保育等の保育計画を立案して実践する。	1. 幼児教育の特質を知り、子どもの特性や発達への理解を深める	30			○				◎	
		2. 幼児への関わりや援助、環境構成、幼稚園教諭の職務について理解する	30		○					◎	
		3. 保育計画を立案して実践することで保育実践力を高めるとともに、振り返って自己の課題を明確にする	40							◎	○
小学校教育実習Ⅰ	小学校の概要を知り、児童の生活について理解するとともに、授業のイメージをつかむことができる。	1. 小学校の概要を知り、児童の生活について理解する。	40	○	◎						
		2. 授業の記録をとり、自分が行う授業のイメージをつかむことができる。	30			○	◎				
		3. 教職員の働きについて理解し、自ら進んで動くことができる。	30						◎	○	
小学校教育実習Ⅱ	児童理解を進め、学習指導案を作成して授業を行うことができる。また、教職員の働きについても理解できるようにする。	1. 児童理解をもとに、進んで児童にかかわることができる。	40	○	◎						
		2. 学習指導案を作成し、授業を行うことができる。	30			○	◎				
		3. 教職員の働きについて理解し、職業につく意欲を高める。	30						◎	○	
教職実践演習(幼・小)	教育・保育現場に出ていく直前の学期に当たり、苦手分野を克服すると同時に、得意分野をさらに伸長させることを目指す。個人指導の要素も極力加味する。	教員・保育者としての実践において自分の苦手な分野が理解できている。	30						◎	○	
		苦手分野克服の努力が十分になされている。	40						◎	○	
		得意な分野は教え合い、他の教員・保育者と共同して教育に当たることができる。その心構えができている。	30				◎		○		
保育実習指導Ⅰ	保育所および施設での実践体験を通して、保育者の働きを学ぶとともに、対象児・者を理解し、保育者を志す者としての自身の課題に向き合うことを授業テーマとする。	1. 保育実習Ⅰの意義・目的・形態を理解する。	40	◎	○						
		2. 保育実習Ⅰに向けて課題を明確にする。	30							◎	○
		3. 保育実習Ⅰを振り返り、今後の課題を明確にする。	30						◎		○
保育実習指導Ⅱ	実習の意義と目的を理解し、教材研究と模擬保育によって保育実践力を培う。また、事後指導において実習を振り返り、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。	1. 保育実習Ⅱの意義・目的・形態を理解する。	20		◎					○	
		2. 保育実習Ⅱに向けた保育実践力を培う	50							◎	○
		3. 保育実習Ⅱを振り返り、今後の課題を明確にする。	30						◎		○
保育実習指導Ⅲ	実習の意義と目的を理解し、これまでの学びを踏まえ、事例検討から保育実践力を培う。また、事後指導において実習を振り返り、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。	1. 保育実習Ⅲの意義・目的・形態を理解する。	20		◎						○
		2. 保育実習Ⅲに向けた保育実践力を培う	50							◎	○
		3. 保育実習Ⅲを振り返り、今後の課題を明確にする。	30						◎		○
保育実習Ⅰ(保育所)	乳幼児への理解を深め、保育所の機能、保育士の職務を理解すると共に、こどもの発達に添った援助の方法を学ぶ。	1. 保育所の保育について理解する。	50	◎	○						
		2. 乳幼児の発達の概要を理解する。	20							◎	○
		3. 保育所、保育士の役割について理解を深める。	30						◎		○
保育実習Ⅰ(施設)	児童福祉施設(保育所以外)等での実習を通じて、施設保育士の職務や児童・利用者への援助のあり方について学ぶ。	1. 実習施設の機能と役割、施設保育士の職務・倫理を理解する	50		◎					○	
		2. 利用児・者のニーズを理解し、適切な援助を行う	30							○	◎
		3. 保育士としての自己の課題を明確化する	20						◎		○
保育実習Ⅱ	乳幼児への理解を深め、保育所の機能、保育士の役割を理解すると共に、子どもの発達に添った援助の方法を学び実践する。	1. 保育所の保育について理解する。	20		◎					○	
		2. 乳幼児の発達の概要を理解する。	40							◎	○
		3. 保育所、保育士の役割について理解を深める。	40						◎		○
保育実習Ⅲ	児童福祉施設(保育所以外)等での実習を通じて、施設保育士の役割と機能を学ぶとともに、多様な業務と職業倫理を理解し、自らの保育士としての課題を明確にする。	1. 実習施設の機能と役割、施設保育士の職務・倫理を理解する	40		◎					○	
		2. 利用児・者支援、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を養う。	40							○	◎
		3. 保育士としての自己の課題を明確化する	20						◎		○
保育実践演習	保育に関わる課題について理解し、解決するための方法を検討して具体的な児童や保護者を援助するための技術・方法について学ぶ。	1. 保育に関する科目横断的な学習能力を習得する	40		◎					○	
		2. 保育に関する現代的課題について、問題等の現状分析・検討を行う	30			◎					○
		3. 問題解決のための対応や方法について検討する	30			◎					○